

第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 明治の国づくりを進めた人々「新しい社会 6年上」(東京書籍 pp.100～113)

2 単元について

○ 本単元は、新学習指導要領解説社会編の第6学年の目標及び内容(2)ア(ケ)「黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ、近代化を進めたこと」(コ)「大日本帝国憲法発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したこと」を受け、設定したものである。本単元では、江戸幕末から明治初期にかけて、200年近く続いた武士の世の中から天皇中心の政治に戻り、諸外国と対等に付き合うために欧米の文化を取り入れ、国力を充実させ、国際的地位を向上させていく様子を学ぶ。2つの時代の違いがはっきりとしており、2つの時代の違いが表れた絵や写真などの資料が多い。よってそれらの資料の違いから疑問をもたせ、時代が移り変わっていく様子を読み取り、どのように変わっていったのか考えていくことに適した単元である。

○ 本学級の児童は、歴史に興味がある児童がいる反面、全く興味がなく、1単位時間に調べなくてはならない内容の多さに困惑している児童がいる。6月に幕末維新博覧会に行き、幕末維新期の佐賀藩の活躍に触れた。しかし、その動きが日本の歴史とどのように関わっているかまでの理解には及んでいない。4月から歴史の学習を始め、1学期は主に人物が行ったことを調べ、なぜそのようなことを行ったのかを考える学習を続けてきた。また、7月から「絵やグラフなどの資料そのものが表していること」、「表していることが意味していること」を教科書の記述などを手掛かりに読み取る学習を行ってきた。現在、絵やグラフなどの資料が何を表しているかはほぼ全員が分かるようになってきた。しかし、資料が表していることを読み取ることができている児童は65%という状態であり、児童の力のみで読み取る段階に至っていると見えない。

○ 本単元では、絵や写真、年表などの資料を読み取ることを中心に学習を展開する。「学習問題をつかむ」過程では、歴史への興味・関心が高くない児童が存在することから、江戸末期と明治初期の絵という違いがはっきり表れている資料を比べ、気づきを出させていきながら、興味・関心を高める。その違いから疑問をもたせ、わずか30年間に何が起こったのかという問いをもたせることで、追究意欲を高めることができるようにする。その際に幕末維新博に行ったことを想起させ、佐賀県出身者の多くが明治維新に関わっていることにも触れる。

「調べる」過程では、「黒船の来航」「廃藩置県や四民平等などの改革」「自由民権運動」「大日本帝国憲法発布」「国会開設」を手掛かりにその当時の出来事を調べていく。児童の力で調べる活動を進めるため、調べるための資料(教科書や資料集)を一度グループで読み合い、絵やグラフなどの資料が何を表しているのかを教科書の記述を基に確認し、調べる活動に入るようにする。そして、調べたことを関連付け、そこから考えられることを導き出すことができるように、「なぜ、黒船来航から14年で政権が朝廷に返されたのだろうか」などと問い、考えやすくするために「憲法が発布されて、政府や国民の願いは叶ったのかな」「憲法が発布されて、国民はどのような思いをもっていたと思うかな」など問いを投げ掛け、絵や写真、地図と実際の出来事を結び付け、それぞれを関連付けながら考えることができるようにする。また、「調べる」過程の最後には、佐賀藩との関係を年表等で確認し、幕末から明治維新のころの興味を更に強くもつことができるようにする。

「考え、まとめる」過程では、学習問題について自分の言葉でまとめる。そのようにすることで学習してきたことを自分で活用させ、江戸時代末期から明治維新にかけての事象を時間の経過について考えながら表現させる力を養う。さらには、次の時代がどのようなか予想させ、次単元への意欲付けを行う。

3 単元の目標

江戸末期から明治維新にかけての世の中の様子、人物の動きや代表的な文化遺産などに着目して、年表や絵などの資料で調べまとめる。また、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現することを通して、黒船の来航、廃藩置県などの改革、文明開化、大日本帝国憲法の発布などを手掛かりに我が国が明治維新を機に欧米文化を取り入れつつ近代化を進め、国力を充実させ、国際的地位を向上したことを理解することができるようにする。

4 評価規準

【現行の評価の観点による評価規準】

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> ○幕末から明治維新にかけての主な事象や人物、文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ○幕末から明治維新にかけての歴史的背景や歴史を学ぶ意味を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幕末から明治維新にかけての主な事象や人物、文化遺産について、学習問題や学習計画を立てている。 ○調べたことを比較したり関連付けたり総合したりして、人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年表や絵などの資料を活用して、我が国の歴史上の主な事象について関わる人物の働きや代表的な文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。 ○調べたことを年表にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国際的地位が向上したことが分かっている。

【新しい評価の観点による評価規準】

※新学習指導要領の評価の観点で示した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国際的地位が向上したことが分かっている。 ○年表や絵などの資料を活用して、我が国の歴史上の主な事象について関わる人物の働きや代表的な文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。 ○調べたことを年表にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幕末から明治維新にかけての主な事象や人物、文化遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ○調べたことを比較したり関連付けたり総合したりして、人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考え適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幕末から明治維新にかけての主な事象や人物、文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ○幕末から明治維新にかけての歴史的背景や歴史を学ぶ意味を考えようとしている。

※佐賀県教育センター「プロジェクト研究（小学校社会科教育研究委員会）」の試案である。

5 単元計画 (全 8 時間 本時 5 / 8) …質的改善を図った手立て

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習問題をつかむ	○維新博に行った経験や資料から学習問題を設定する。	○維新博に行った経験を想起させ、本単元の学習意欲をもつことができるようにする。 ○江戸幕末期の絵と明治初頭の絵を見比べ、違うところを探させるようにする。 ○この時代の大きな変化を「明治維新」ということを伝え、どんなことが変化したのか気付かせたり、予想させたりする。 ○200年以上続いた江戸幕府が崩れ、40年余りでどのような変化があったのかを問い、学習問題を設定する。	・幕末から明治維新にかけての主な事象や人物、文化遺産に関心をもち、意欲的に調べようとしている。【関】 ・幕末から明治維新にかけての主な事象や人物、文化遺産について学習問題や予想、学習計画を考え表現している。【思】	1
	江戸時代末期から明治維新にかけて、どのように変わったのだろう。(学習問題)			
調べる	○黒船の来航以降、政権が幕府から明治政府へ移されるまでについて調べる。	○単元の学習に見通しをもつことができるように、調べることを図や表に表したものを掲示する。 ○黒船来航の絵に日本人と外国人が描かれていることを手掛かりに、外国人が強い武力で開国を迫ってきたことを調べさせる。 ○調べたことを基に、幕府に力がなくなってきたことと開国・大政奉還とを関連付けて考えさせるようにする。	・絵や地図などの資料を活用して、我が国の歴史上の主な事象について関わる人物の働きや代表的な文化遺産について必要な情報を集め、読み取っている。【技】	1
	○明治新政府の改革について調べる。	○富岡製糸工場や徴兵令の絵にたくさんの人が描かれていることを手掛かりに、政府が国を挙げて行った改革について調べる。 ○調べたことを基に、国を強くするために改革を行う政府と負担に苦しむ庶民がいることについて関連付けて考えさせるようにする。	・廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国際的地位が向上したことを理解している。【知】	1
	○自由民権運動について調べる。	○西南戦争の絵や演説会の絵に描かれている武力から言論に変わったことを手掛かりに、自由民権運動について調べさせる。 ○調べたことを基に、政府が士族や民衆たちの反乱を鎮圧したことと言論による主張が支持されていったことについて関連付けて考えさせる。	・武力が抑えられ、言論による訴えに変わってきたことや、国民も政治に参加すべきという自由民権運動が広がってきたことを理解している。【知】	1
	○大日本帝国憲法発布について調べる。	○大日本帝国憲法発布の絵に天皇を中心とした様子が描かれていることを手掛かりに、大日本帝国憲法発布について調べる。 ○調べたことを基に、国民が政治に参加できるような風潮が広がったことと、天皇中心の国家になっていったことについて関連付けて考えさせる。	・大日本帝国憲法が発布されたことについて、調べたことを比較、関連付けたり総合したりして、人物の願いや働きを考え適切に表現している。【思】	1 本時 5 / 8
	○国会開設について調べる。	○第 1 回国会の様子の絵と国民が政治に参加している様子が描かれていることを手掛かりに、国会開設について調べる。 ○調べたことを基に、国民の政治参加が果たされたが、一部の国民のみで国民の政治参加はまだ十分果たされていないことを関連付けて考えさせる。	・国会が開かれたことについて、調べたことを比較、関連付けたり総合したりして、人物の願いや働きを考え適切に表現している。【思】	1

	○佐賀藩は明治維新にどのように関わったのかを調べる。	○佐賀藩の年表と学習した内容を関連付けさせ、佐賀藩の活躍に気付き、幕末から明治維新にかけてより関心を持たせるようにする。	・調べたことを年表にまとめている。 【技】	1
考え・まとめる	○学習問題について自分の考えをまとめる。	○学習してきたことを活用させて、学習問題についての自分の考えを書く。	・幕末から明治維新にかけての歴史的背景を考えようとしている。 【関】	1

6 本時の目標

国民は政治参加を望んでいたが、選挙権が制限されており、政府は天皇中心の国づくりを目指していたことを考え、表現することができるようにする。 【社会的な思考・判断・表現】

7 展開(全 8 時間 本時 5 / 8)

…質的改善を図った手立て

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
<p>1 学習問題や本時の学習を確認する。 〈全体〉</p> <p>学習問題：江戸時代末期から明治維新にかけて、どのように変わったのだろう。</p>	<p>○単元の見通しをもたせ、学習の意欲をもつことができるように、学習問題を確認する。</p> <p>○本時に学習するところの見通しをもたせるために、児童の調べたいことをまとめた表から、本時に学習する場面を確認させる。</p> <p>○前時で「10年後に国会を開設する」という約束がされたことを確認し、10年の間に憲法をつくらなくてはいけなかったことを確認する。</p> <p>○大日本帝国憲法について、発布前と発布後に日本がどのように変わったのかを調べると学習問題の解決につながることを確認し、本時の学習の見通しをもつことができるようにする。</p>
<p>めあて 「憲法」は、どのようなものができたのだろう。</p>	
<p>2 「大日本帝国憲法」「五日市憲法」の資料を見て、何の資料か、どのような様子かを予想させる。 〈個〉</p>	<p>○前時を振り返り、政治に国民が参加すべきという風潮が広がっていったことを想起させる。</p> <p>○「憲法発布の祝い」の資料を見て、何に喜んでいるのかを予想させ、本時の学習への意欲を高めさせる。</p> <p>○予想として挙げたことを調べると、本時の問いが解決できることを確認し、本時の学習の見通しをもたせる。</p> <p>○グループで教科書を読み合い、大日本帝国憲法発布に関する資料について話し合うことで、一人で調べる時より調べる活動が行いやすいことを確認させ、グループで調べる活動への意欲付けを行う。</p>
<p>3 「大日本帝国憲法」「五日市憲法」に関わる資料が何を表しているか、読み取れることはどのようなことかを調べる。 〈グループ〉</p>	<p>○グループで資料と記述内容の関係を理解しながら調べられるように、以下の手順で学習を進めさせる。</p> <p>①本時の学習で必要な資料は、教科書ではどこに掲載されているか確認する。</p> <p>②資料についての記載がされている本文を読む。</p> <p>③それぞれの資料について何の資料か、読み取れることは何か、それは資料のどこを見たら分かるかなどを</p>

	<p>話し合う。 ④話し合ったことから、それぞれの資料について分かったことなどを記述させる。(相談可)</p>
<p>4 「大日本帝国憲法」と「五日市憲法」とを比較して、国民の政治参加について考える。 (個→全体)</p>	<p>○活動が進んでいないグループには、予想として挙げたことが当たっていたか尋ねたり、資料の一つ一つが何を表しているものかを尋ねたりして記述ができるようする。 ○全体で共有し、「国民の意見」「国民の権利」「天皇の権限」などのキーワードを取り上げ、考える際の手がかりにさせる。 ○2つの考えがあったことを確認させ、それぞれの資料と2つの考えを関連付けできるようにする。 ・自由民権派がつくった憲法草案と国民の意見を反映したもの、国民を中心としたものであったこと。 ・大日本帝国憲法で規定されている国民の権利が制限されていたこと。</p> <p>○「天皇の権限」「国民の意見」などのキーワードに着目させ、どのように変わったのかを考えさせる。 ○政府の考えや国民の願いが叶ったのかを問い、国民は一部選挙権が認められるようになったが、制限された選挙権であったことに気付かせる。</p> <p>○2つの考えを整理させ、江戸時代と比べて国民が政治参加を望み、政治について考えるようになったことと政府は天皇中心の国づくりを目指していたことを関連付けて考え表現できるようにする。【評価：ワークシート】 ○記述が進まない児童には、今までの動きや願い、調べたことなどを伝え、それらをつなげて考えてみるように促す。 ○「憲法発布の祝い」の資料を再度見せ、「何も知らされていない」ことに気付かせ、次時では国民の意見は反映されないままなのか調べ、考えることを伝える。</p>
<p>5 本時のまとめをする。 (個)</p>	

8 本時の評価

<p>評価規準</p>	<p>国民は政治参加を望んでいたが、選挙権が制限されており、政府は天皇中心の国づくりを目指していたことを考え、表現している。 【社会的な思考・判断・表現】</p>		
<p>判断する めやす (判定基準)</p>	<p>十分満足できる状況(A) 国民が政治参加を望んでいたが、選挙権が制限されており、政府は天皇中心の国づくりを目指していたこと、大日本帝国憲法や五日市憲法草案といった事実と関連付けて表現している。</p>	<p>おおむね満足できる状況(B) 国民が政治参加を望んでいたが、選挙権が制限されており、政府は天皇中心の国づくりを目指していたことを表現している。</p>	<p>努力を要する状況(C) (B)に達していない記述</p>
<p>→(B)、(C)と判断した児童への支援</p>		<p>→本時までの学習を振り返り、根拠となる資料と関連付けるよう促す。</p>	<p>→本時の学習を振り返り、板書のキーワードを捉えさせる。</p>
<p>評価方法</p>	<p>ワークシートの記述の分析</p>		